

穂 落ち

闘っていた。父も闘っていた。父は闘って日本チャンピオンになった。いやその前から闘っていた。私は父が三十八歳の時の子供だから闘っていた姿は見たことがないけれど、雰囲気はわかるのです。

私は三十歳の時から薬と闘うことをやめました。それまでは人さまからは、意志が弱いと言われ続け、本気で意志を強くしようと思いついたのにあきらめかけていたので。そんな時に薬物依存症の先行く仲間と出会う事ができ、ある答えをもらう事ができました。私はもともと意志が強いからそれ以上、強くしようとしなくても良い。という目からうつろこの話でした。

言われてみれば私は、刑務所に入ろうが、精神科病院に入ろうが、親が泣こうが、友人が周りからドンドン離れようが、十二年間薬を使い続けたのです。並の意志の強さではないのです。つまり、私の価値観を変える必要があり、価値観を変えるためには「生き方」を変える必要があったのです。かつて売人をしていた私がポランテアを行っていません。薬が止まったからポランテアが続いているの

連戦連敗

三浦 陽一

(沖縄ダルク・チーフディレクター)

問題は意志が強いとか弱いとかの問題ではなく、その方向性に問題があったのです。そのように考えると、私の薬物依存症の問題を解決する方法が見えてきました。意志の方向性を変えるには「最初と言われたのは「薬を止めることを止めなさい」とい

う、本当にこれは薬物依存症からの回復施設なのかと耳を疑う言葉でした。たしかに百回以上も薬を止めても止め続けられなかった私は薬と闘っても勝てないという事であり、連戦連敗だったのです。

「もう使わない」と薬に戦を挑むのではなく「もう使えない」と自分の無力さを認める事が必要だったのです。残念ながら今でも私は禁煙のマークを見るとタバコが吸いたくなります。吸っては駄目なのだと思えば思う程に思い出して、吸いたくなるのです。そろそろ思い出してニコチンの禁断症状が開始されたので、今日はここまで。